

2026年度 大垣女子短期大学 出前講座

分野 : 健康

テーマ : 口腔機能と脳老化について～お口から始める脳のアンチエイジング～

講師 : 歯科衛生学科 教授 松下健二

◆概要

口腔は食や感染の入り口であり、口腔機能の低下や口腔の感染は全身の重大疾患や老化に影響を及ぼす。咀嚼機能や嚥下機能の低下は脳の老化や認知機能の低下を促進する。また、ある種のアロイドや糖アルコールは脳の老化を抑制できる可能性がある。本講義では、お口から始める脳のアンチエイジングについてお話しする。

◆内容

カナダの脳外科医であったペンフィールドは、大脳皮質の感覚と運動に関連する領域の約半分は口腔に繋がっており、口腔の機能と脳機能は密接に関連していることを明らかにした。自分の歯が少ないほど認知機能が低く、また認知症の発症リスクが高いことが報告されている。保有歯数の減少は咀嚼機能の低下につながる。咀嚼機能の低下は、①脳血流の低下、②全身の栄養状態の悪化を招き、そのことが認知機能に悪影響を及ぼすことが考えられている。最近、我々は上顎臼歯を喪失した高齢マウスにおいて、認知学習機能の低下や夜間の徘徊といった行動の変化とともに、記憶を司る海馬の老化や炎症の増加、攻撃性の増加が引き起こされることを明らかにした。咀嚼機能の低下やその原因となる歯の喪失は認知機能低下や脳老化と密接な関係がある。本講義では、お口の健康と脳の健康の関係について詳細に解説する。

用意するもの：液晶プロジェクター（Mac 対応）、マイク

◆出講可能な時間帯

- ・前期（4月～7月） : 木曜日（午後）、金曜日（午前・午後）
- ・後期（10月～1月） : 木曜日（午後）、金曜日（午前・午後）

◆講師情報

- （1）専門分野 : 歯周病学、免疫学、口腔微生物学、老年歯学、抗加齢学、血管生物学、神経病態学
- （2）主な担当科目 : 病理学、歯科保存・修復学、栄養生化学、ヒトの体のしくみ
- （3）一言メッセージ : 内容については、小学生から高齢者までどの世代でも対応可能です。